

# まってるすけ高柳

☆身近な自然の恵みでつくる持続可能な「ほどほどのじょんのびライフ」を

～実践的な暮らしの寄稿文～ 漆島在住 長永 明

32年前バブル経済真っ盛りどころ 田んぼ、畑、川、山が身近にあつて、生活に必須の水、食料、エネルギーが調達でき、そこそこお金が稼げるところを探し、縁があつて高柳にやって来ました。バブル経済はすぐに弾け、そのあと混乱の時代が続き、地球環境、エネルギー問題、国際情勢もますます困難な道をさまよっています。強力で安い石油、天然ガスなどエネルギーを好きなだけ使える幸運な時代は終わりを迎えています。安心の暮らしは持続可能性を確保することから。その基本は、エントロピー増大の法則(※注1参照)と物質循環にあります。

## 1. 身近でできるエネルギーの調達

森林資源、太陽熱、ソーラー発電、小水力発電、人力、生物力(植物、動物、虫、ミミズ、微生物など)。毎年雪の降る前に棚に積み上がった薪を見ると安心します。庭先小水力発電は50Wくらい。高性能な水車+発電機をつくってくれるところがあるといい。わが家の自給率はまだ30%ちょっと。

## 2. 生きもの田んぼでのお米作りと除草ロボット

田んぼに森からの水を入れると、生きものたちがやってきて、生態系をつくり、できた天然有機肥料と水に含まれる養分で稲が育つ。耕さない、人為的肥料を入れない、無農薬、経費がかからない。でも 収量が少ない、草取りがたいへん。たいへんな草取りをロボットにやって貰おう。工科大学に依頼して除草ロボットを開発中(雪郷ロボット研究会として活動)。将来は田植えロボットもやってくれれば大助かり。ソーラー電力、小水力電力をロボットのバッテリーに貯めればお米作り用のエネルギーも自給できるようになります。

## 3. 雪郷サイクリングサーキット

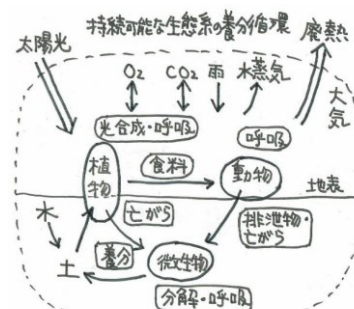
細くて曲がりくねっていて、車のたまにしか通らない山間地の道路は、サイクリングに最適。電動アシスト自転車なら登りも楽々。レースはしない。ゆっくり見て回る楽しみ。ところどころにお休み処があるといい。黒姫山山麓一周サイクリングコース、栃ヶ原→芝峠温泉→田代→門出、岡野町→黒姫山林道→水上→野田→谷根→夢の森公園→小清水、松代、松之山、大島区などいろいろ。



実験用小水力発電50W



羽化するツンボ



裏面もあります